

質問（黒澤昭治議員）グリーン・ツーリズムの来年度の事業計画及び農家民泊の宿泊施設は何件程度決まったのか並びに株式会社大田原ツーリズムの体験プログラムの内容について伺います。

答弁（市長）来年度の事業計画については、農家民泊、大手旅行業者との連携による営業活動、日帰りツアーの実施をメインに、企業団体旅行、さらには教育旅行受託への販売PR、県内スポーツ団体との連携による旅行パッケージの企画を中心に

グリーン・ツーリズムについて

考えています。また、商品開発事業にも取り組んでおり、一部商品化も進みますので、販売活動も視野に入れて事業を展開する予定であります。

農家民泊の希望農家は、現在のところ二十戸が希望しております。そのうち六戸をモデルケースとして、県の関係機関と協議を進めています。現在協議中の指導事項が改善され次第、早急に申請し、二月許可を想定しています。

株式会社大田原ツーリズムの体験プログラムパンフレットに



現在使用されている受令機

消防救急無線のデジタル化について

質問（菊池久光議員）アナログ無線からデジタル無線への移行に伴い、消防団のデジタル無線の配備計画について伺います。

答弁（消防長）消防救急無線は、現在のアナログ波が平成二十八年五月三十一日で終了し、平成二十八年六月一日以降はデジタル波のみの使用となります。消防団無線についても例外ではなく、デジタル化への対応が必要となってきます。

現在アナログの受令機は、市

役所本庁、湯津上支所、黒羽支所に各一台、消防団車両五十六台の計五十九台が設置されております。この更新費用としては、現時点で約二千百万円が見込まれます。また、消防団幹部三十三人に携帯型受令機を整備しますと約五百万円が見込まれます。さらに、消防団の双方の通信が可能な体制を整えるためには、消防本部、分署、幹部に携帯型受令機とは別にトランシーバー等の配備が必要とな

り、約七百五十万円が見込まれます。これらを合わせますと約三千三百五十万円を超える予算が必要となってきます。

現在、メーカー各社が消防救急無線のデジタル化に向けて機器の開発に取り組んでいますので、今後の機器の開発の動向を踏まえ、各機器の仕様、性能、価格等を見きわめ、効率的な配置を検討していきたいと考えています。また、その実施時期については、大田原地区広域消防組合の新庁舎の竣工に合わせ、平成二十七年度を目途としてい

つきましては、学校教育旅行版が、先月百以上のプログラムででき上がりました。農山村交流、田舎生活体験、教育プログラム、産業体験、自然体験、歴史・文化体験、工芸・クラフト体験の六つに分かれ、通年プログラムとしては、水や資源に対する知識、理解を深める。プロジェクト・ウエット、環境負荷の少ない農法や農山村地域のつながりを学ぶ循環型農業、栃木三鷹を使った七味づくり体験、四季ごとに田植えや稲刈り体験、ブルーベリーやイチゴ、ウドなどの地元農産物の収穫体験、これら収穫した農産物の加工や調理体験などのプログラムがあります。



株式会社大田原ツーリズムが発行した 体験旅行ガイド

※水や水資源に対する認識、知識、理解を深め責任感を促すことを目標とした水に関する教育プログラム